

第12回 担保物権法の後半のミニテスト

2022/12/7

松岡 久和

次の事例について、下記の3つの問いに理由を示して簡潔に答えなさい（50点）。

- 01 2021年10月末、卸売業者Aは、金融業者Bから3000万円の融資（期間3か月、利息・遅延損害金その他の約定の詳細は省略する）を受け、主力商品甲の在庫品すべて（この時点で通常卸売価格6000万円相当）を借入金返還債務の担保としてBに譲渡し、占有改定によりBに引き渡した。
- 02 同年12月10日、Aは、大手小売業者Cから、甲の在庫品の半分（3000万円相当）をまとめて買うから20%値引きするよう求められた。同じ業界人であるCは、在庫商品が担保になっていることに気付いていた。Aは、通常は10%の値引きを限度に小売業者に販売していたが、社長決裁により、Cと話し合っ2500万円（約17%値引き）の代金後払で売却する契約を結び、直ちに売却した量の甲をCに引き渡した。

（問1）

Aの値引き販売を知ったBは、Bの承諾なく担保を故意に減少させたと怒り、Cに対して、Cが買い受けた甲の返還を請求した。この主張は認められるか（20点）。

（問2）

Bは、Cに対する問1の請求を取り下げることにし、その代わりに、Cに対して、代金2500万円を直接Bに支払うよう求めた。この主張は認められるか（10点）。

02に続いてさらに03の事実が生じた。

- 03 2022年1月5日、Aは、Dから500万円の融資（期間20日）を受け、甲の在庫品すべて（この時点で1000万円相当）を担保として、Bの担保の存在を知らないDにも譲渡し、やはり占有改定により引き渡した。1月末にAは事実上倒産した。

（問3）

BがAに甲の引渡しを求めたところ、Dがその前日に倉庫から甲を運び去っていた。BはDに対して、Dの運び去った甲の返還を求めることができるか（20点）。